


有人宇宙開発 パネル展

データ提供 JAXA

展示期間
2月22日(木)から
3月20日(水)まで

「きぼう」日本実験棟

JAXA



国際宇宙ステーションは、高度400km上空の地球周回軌道上に展開された有人宇宙ステーションです。日本実験棟「きぼう」は、国際宇宙ステーションの構成要素の一つとして、2015年5月に国際宇宙ステーションに搭載されました。

きぼうの役割


- ① 宇宙飛行士の生活と作業のサポート
- ② 宇宙飛行士の健康と安全の確保
- ③ 宇宙飛行士の作業効率の向上
- ④ 宇宙飛行士の作業環境の改善

きぼうの構成

- ① 実験棟本体
- ② 実験棟外部装置
- ③ 実験棟内部装置

国際宇宙ステーション(ISS)

JAXA



国際宇宙ステーション(ISS)は、地球の周りを約90分かけて周回する有人宇宙ステーションです。ISSは、国際宇宙ステーション計画(ISSP)に基づき、1998年から2011年にかけて、ロシア連邦、米国、欧州宇宙機関、カナダ、日本、イタリアの6カ国によって共同開発されました。

ISSの構成


- ① 実験棟
- ② 居住棟
- ③ 太陽電池パネル
- ④ 補給船
- ⑤ 宇宙飛行士

ISSの役割

- ① 宇宙飛行士の生活と作業のサポート
- ② 宇宙飛行士の健康と安全の確保
- ③ 宇宙飛行士の作業効率の向上
- ④ 宇宙飛行士の作業環境の改善

国際宇宙ステーションの歴史

JAXA



国際宇宙ステーション(ISS)の歴史は、1970年代から始まります。1973年にソ連の礼拝堂(Salyut 1)が打ち上げられ、人類初の有人宇宙ステーションとなりました。その後、米国もスカイラボル(Skylab)を打ち上げ、有人宇宙ステーションの開発が進められました。

ISSの開発経緯

- ① 1973年：ソ連の礼拝堂(Salyut 1)の打ち上げ
- ② 1973年：米国のスカイラボル(Skylab)の打ち上げ
- ③ 1980年代：ISSの概念が明確化される
- ④ 1998年：ISSの打ち上げ開始
- ⑤ 2011年：ISSの打ち上げ完了